

「景気動向に関するアンケート調査」報告書

令和5年12月

【調査趣旨】

神栖市商工会会員事業所の現状把握および今後の支援策について検討することを目的とする。

【調査概要】

調査時期:2023年10月~11月30日

調査対象:商工会会員事業所等

調査方法:窓口・FAX・Web アンケート

回答数:141件

【今回調査の業種別 DI】(令和5年7~9月を4~6月と比較)

項目\業種	全業種	製造業	小売業	建設業	卸売業	サービス業
3. 景況感	△ 24.8	△ 35.8	△ 43.3	△ 11.4	△ 44.5	△ 18.2
4. 売上	△ 24.1	△ 35.7	△ 46.7	△ 2.3	△ 33.3	△ 25.0
5. 仕入(原材料)価格	77.4	85.7	86.7	68.2	66.7	79.6
6. 利益	△ 48.2	△ 35.7	△ 73.4	△ 27.3	△ 44.5	△ 56.8
7. 資金繰り	△ 25.5	△ 21.5	△ 36.7	△ 18.2	△ 11.1	△ 29.6
8. 3ヶ月先の見通し	△ 19.1	△ 7.2	△ 33.3	△ 6.8	△ 11.1	△ 27.2

※DIは、「良い」と回答した企業の割合 - 「悪い」と回答した企業の割合

<DIの詳細説明>

売上 DI の算出方法:集計結果 ①上昇した 13.5% ②変化なし 48.9% ③減少した 37.6% ⇒

①-③(13.5-37.6)=△24.1 となっております。

仕入 DI の算出方法:集計結果 ①上昇した 80.9% ②変化なし 15.6% ③減少した 3.5% ⇒

①-③(80.9-3.5)=77.4 となっております。

※上記表の数値は、仕入価格以外の数値については大きく(プラスに)なるほど景気が良くなっていると判断されます。また、仕入価格の DI 値は、マイナスとなる事が理想だが、プラスになっても価格転嫁が適正に行われ、利益が増加していれば問題ありません。

【アンケート結果(全業種)の概要】

<3.景況感>では、卸売業で△44.5 と悪化割合が最も大きいのに対し、建設業では△11.4 と悪化割合は少なく業種間で大きな差が表れているものの、全体的には悪化していると感じている事業所が多い。

<4.売上>は、建設業では△2.3 と他の業種に比べて減少している事業所が少ないが、5 業種全てでマイナスとなっており、多くの事業所で売上が減少している。

<5.仕入(原材料)価格>は、小売業では 86.7 と上昇した事業者が多く、一番数値の低い卸売業でも 66.7 となっており、多くの事業所で仕入(原材料)価格が上昇している。

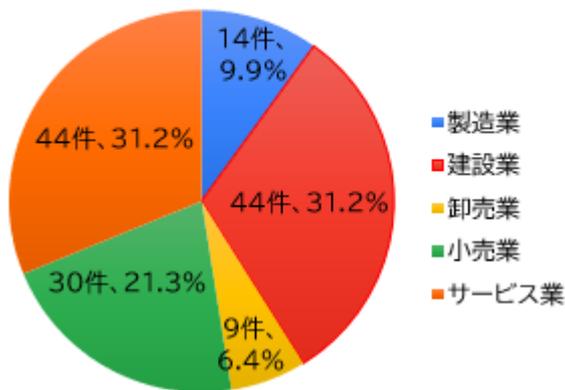
<6.利益>では、減少割合が最も大きかったのは小売業で△73.4 と他の業種と比べると突出しており、一歩減少が少なかった建設業においても△27.3 と利益が減少した事業所が多い。

<7.資金繰り>では、小売業で△36.7 と最も悪化している事業所が多く、厳しくなっている割合が少ない卸売業でも△11.1 となっており、資金繰りが厳しい事業所が多いことが分かる。

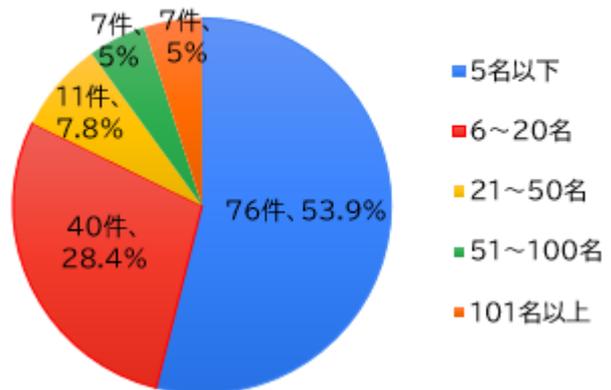
<8.3ヶ月後の見通し>は、小売業は△33.3 と全業種の中で最も厳しい見通しをしている一方で、建設業で△6.8 製造業は△7.2 と他の業種に比べると数値が高いものの、依然厳しい事業所が多い事が分かる。

【アンケート結果(全業種)の詳細】

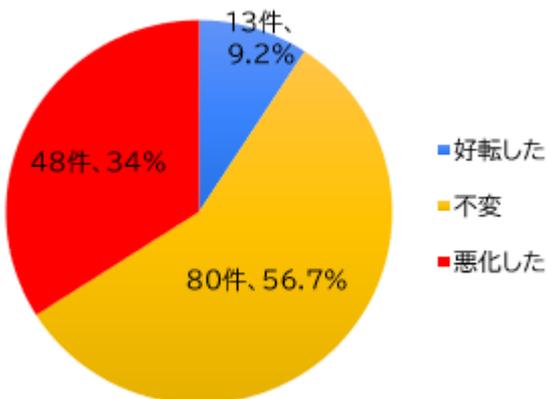
1.業種別回答数



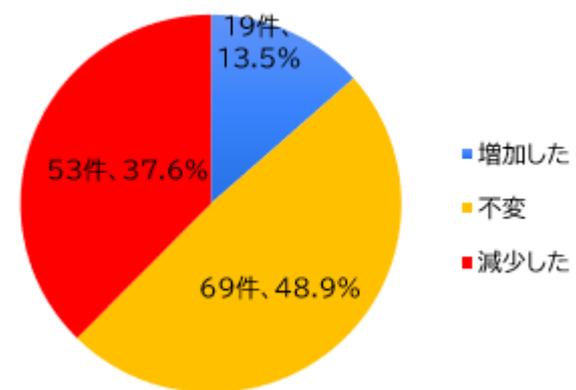
2.従業員数



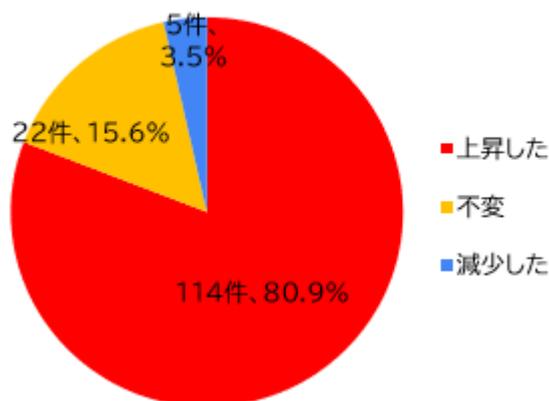
3.景況感について



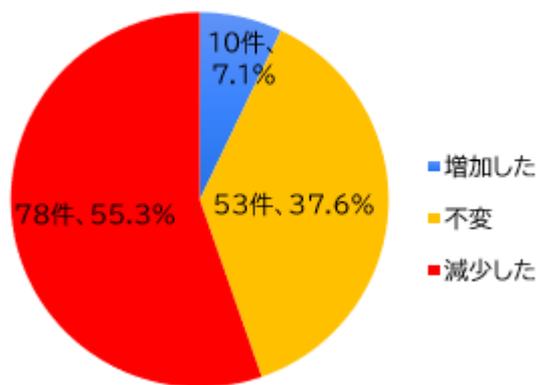
4.売上について



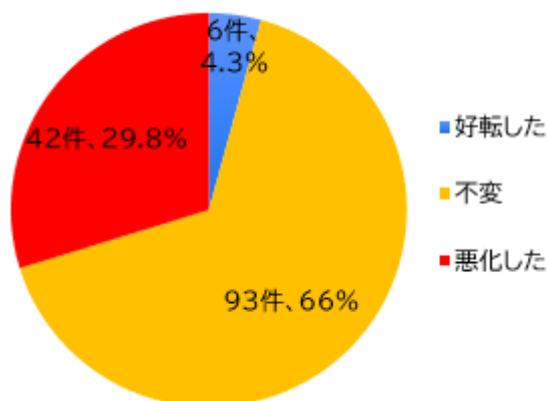
5.仕入価格について



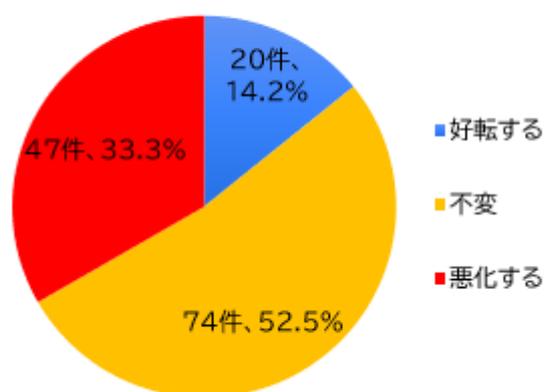
6.利益について



7.資金繰りについて



8.業況の見通しについて

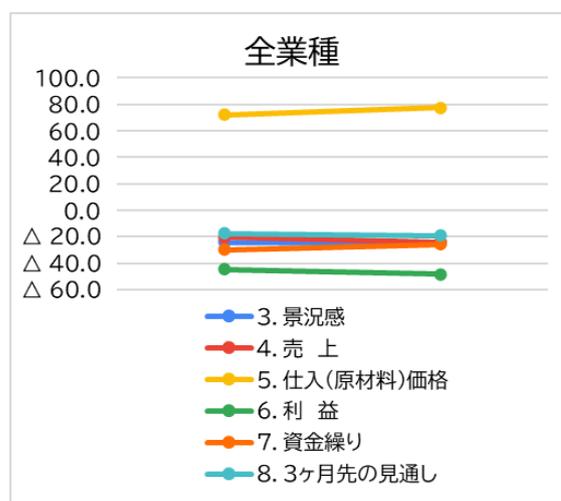


【前回調査からの推移】

[全体の概要]

項目\業種・期間	全業種	
	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 24.0	△ 24.8
4.売上	△ 20.4	△ 24.1
5.仕入(原材料)価格	72.2	77.4
6.利益	△ 44.4	△ 48.2
7.資金繰り	△ 29.6	△ 25.5
8.3ヶ月先の見通し	△ 17.6	△ 19.1

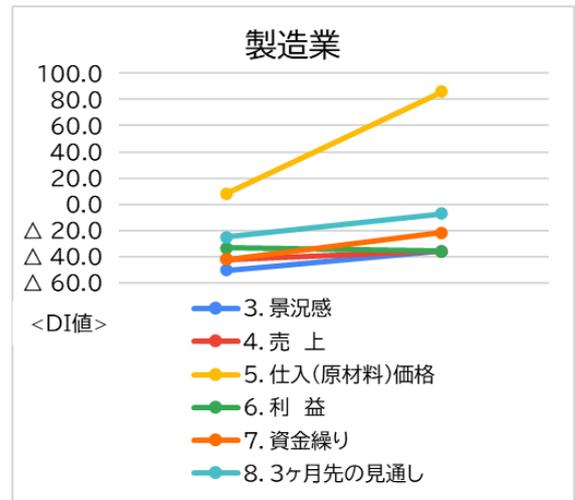
売上は 3.7 ポイント減少、仕入価格は 5.2 ポイント増となっており、売上減に加え仕入価格増により利益も減少しており、利益は 3.8 ポイント減となった。右図のグラフのとおり、全体的にやや悪化していると思われる、今後もやや厳しい状況が続く事が想定される。



[製造業の概要]

項目\業種・期間	製造業	
	4-6月	7-9月
3. 景況感	△ 50.0	△ 35.8
4. 売上	△ 41.7	△ 35.7
5. 仕入(原材料)価格	8.3	85.7
6. 利益	△ 33.3	△ 35.7
7. 資金繰り	△ 41.7	△ 21.5
8. 3ヶ月先の見通し	△ 25.0	△ 7.2

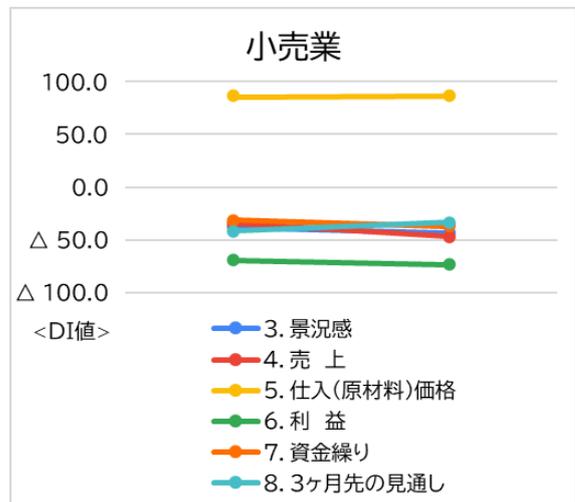
前回調査と比較し、仕入(原材料)価格は大幅に増加しており利益の圧迫要因となっている反面、売上については若干の改善により、景況感・資金繰り・3ヶ月先の見通しはいずれも改善傾向にある。



[小売業の概要]

項目\業種・期間	小売業	
	4-6月	7-9月
3. 景況感	△ 38.0	△ 43.3
4. 売上	△ 34.5	△ 46.7
5. 仕入(原材料)価格	86.3	86.7
6. 利益	△ 69.0	△ 73.4
7. 資金繰り	△ 31.1	△ 36.7
8. 3ヶ月先の見通し	△ 41.4	△ 33.3

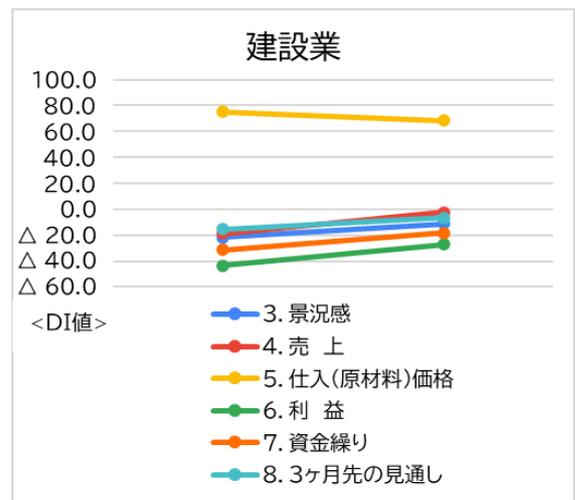
前回と比較し、仕入価格はほぼ変化が見られないものの、売上が 12.2 ポイント減と大幅に減少している影響から、景況感・利益・資金繰りの数値においても減少している。また、3ヶ月先の見通しでは若干の改善となった。



[建設業の概要]

項目\業種・期間	建設業	
	4-6月	7-9月
3. 景況感	△ 21.9	△ 11.4
4. 売上	△ 18.8	△ 2.3
5. 仕入(原材料)価格	75	68.2
6. 利益	△ 43.7	△ 27.3
7. 資金繰り	△ 31.2	△ 18.2
8. 3ヶ月先の見通し	△ 15.6	△ 6.8

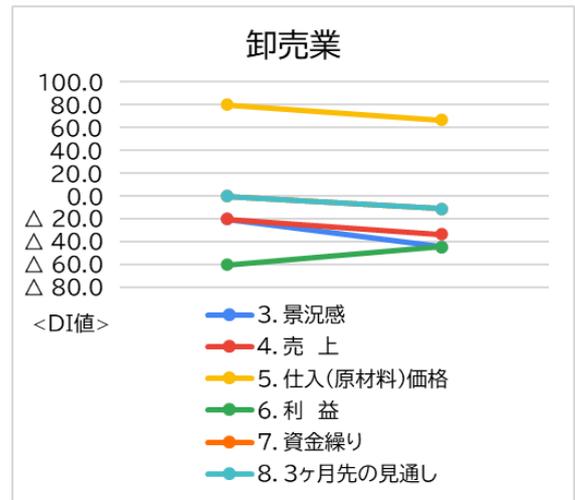
売上が 16.5 ポイント増と大幅な改善が見られ、さらに仕入(原材料)価格においても 6.8 ポイント改善していることから、景況感・利益・資金繰り・3ヶ月先の見通しのいずれも改善傾向にある事がうかがえる。



【卸売業の概要】

項目\業種・期間	卸売業	
	4-6月	7-9月
3. 景況感	△ 20.0	△ 44.5
4. 売上	△ 20.0	△ 33.3
5. 仕入(原材料)価格	80	66.7
6. 利益	△ 60.0	△ 44.5
7. 資金繰り	0	△ 11.1
8. 3ヶ月先の見通し	0	△ 11.1

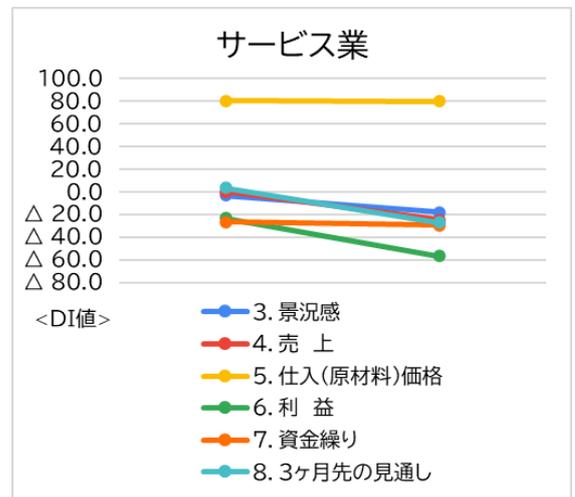
仕入価格と利益は前回よりも改善傾向にあるが、その他の項目については悪化傾向にあり、景況感では24.5ポイント減少するなど今後の見通しなど厳しいと感じている事業者が多い事がうかがえる。



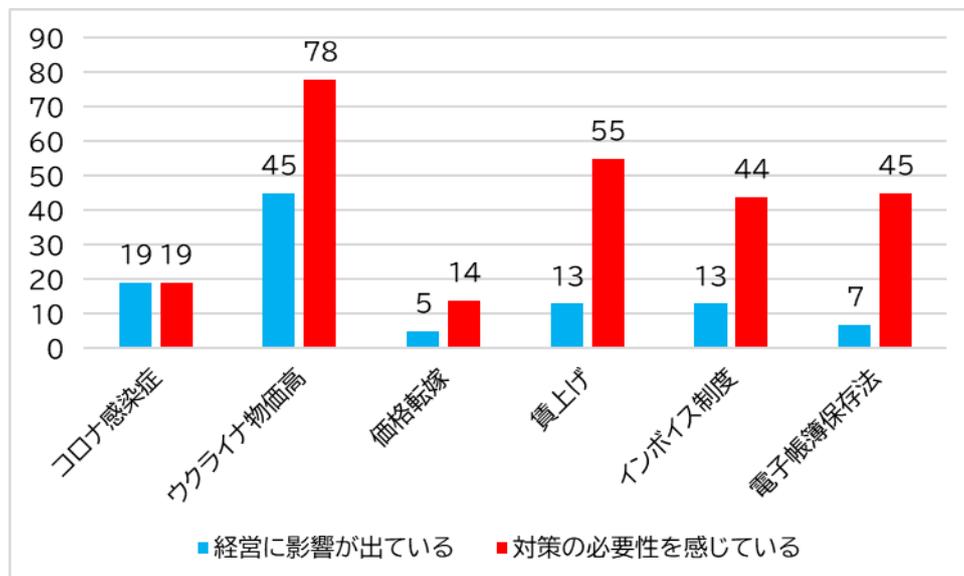
【サービス業の概要】

項目\業種・期間	サービス業	
	4-6月	7-9月
3. 景況感	△ 3.3	△ 18.2
4. 売上	0	△ 25.0
5. 仕入(原材料)価格	80	79.6
6. 利益	△ 23.3	△ 56.8
7. 資金繰り	△ 26.7	△ 29.6
8. 3ヶ月先の見通し	3.3	△ 27.2

仕入価格は前回と比較して大きな変化は見られなかったが、利益では33.5ポイント減と大幅に減少した。その他の項目でも全て減少傾向にあることから、サービス業では今後も厳しい経営環境が続く事が予想される。



【経営への影響や対策の必要性について】



コロナウイルス感染症の影響は減少傾向にあるが、ウクライナ関連の物価高については多くの事業所で経営に影響を受けていると思われる。また、国が推し進めている賃金引上げについても、事業所の利益を圧迫する要因となっており、多くの事業所で厳しい経営環境となっていることがうかがえる。

令和5年10月からインボイス制度が始まったものの、インボイス開始後の対応に戸惑っている事業所が多く存在していることがうかがえる。また、令和6年1月から始まる電子帳簿保存法の対応についても対応の必要性を感じている事業所が多いと思われる。

その他、経営に影響を及ぼしている要因や、お気づきの点やご意見ご要望について

人材不足

- ・若手の人材不足。元請けからの値引き
- ・労働力不足・人を入れても利益になる前に退職してしまう
- ・人手不足
- ・人材不足が深刻(求人を出しても集まらない)。事業承継
- ・従業員が増えないため、現場数が限られてしまう

物価高騰

- ・原料・燃料の高騰に対する販売単価への価格転嫁
- ・物価高騰で先が不安
- ・物価高騰と賃上げの影響により、買い控えが続いていると思う
- ・売上は伸びたが、それよりも経費が高くなり利益は減少した
- ・特にコロナの影響もなく業績は好調である。しかし、資材・燃料費などの高騰が今後どのような影響を及ぼすか注視している。
- ・電気代の高騰
- ・物価高騰による顧客の減少
- ・8/26に発生した工場火災による被害が大きな要因となっている
- ・円安によって日本経済・地域経済が崩壊しつつあるのではなく、崩壊が着実に進行し、堅実な企業・商店まで蝕まれている。もういい加減円高政策に舵を切って欲しい。増税止めて下さい

売上減少

- ・お客様の不在、集客数の減少
- ・競合店出店による売上減少が明らか。この危機を乗り越えて常連客の戻りに期待
- ・コロナで控えていた行事等の感染症対策が緩和されたにもかかわらず目立った復活が見られない

その他

- ・経営に直結するようなセミナーなど積極的に参加したい
- ・DX化が進んでいくと思うが、どの様に対応したら良いか？どんなアプリを使えば良いか？
- ・景気動向は業種にもよると思うが幸運にも好転している
- ・働き方改革による従業員の賃上げは行おうが、工事請負金の値下げで経営に影響が出ている。
- ・福島原発の処理水による魚介類の風評被害が今後見込まれることが不安

景気動向に関するアンケート調査結果(2023年12月)

実施・編集 神栖市商工会

お問合せ Tel0299-92-5111